

識を修得します。また、専門基礎科目(必修科目)として、国内(「日本語教育実習研究」)や海外(「日本語教育海外実習研究 A」)の日本語教育機関において実習を行うことで教育実践力と省察力を高めます。

4年次においては、卒業論文で、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

本プログラムの開始時期は、1年次である。日本語・日本文化教育学プログラムに入学することが受入条件である。プログラム選択のための既修得要件は、特にない。

6. 取得可能な資格

登録日本語教員養成機関および登録実践研修機関としての認定を受けているため、本プログラムを修了した際には登録日本語教員の資格を取得するために必要な基礎試験と実践研修が免除される。教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、高等学校教諭一種免許(国語)が取得可能である。また、特定プログラムを追加して修得することで、学芸員、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ、配属方法、時期等)

○目的

卒業論文は、本プログラムを通して身につけた、「知識・理解」、「能力・技能」、「実践的な力」、「総合的な力」を活用し、日本語教育5領域に関する独自の課題を設けて、研究成果をまとめることを目的とする。

○概要

日本語教育5領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマに即して研究を進め、4年次10月の所定期日に研究テーマを、1月末には卒業論文を提出する。

○配属時期と配属方法

3年次後期中に、卒業論文指導教員を決め、主要な研究領域を決定する。4年次に日本語教育学特定研究I・IIを履修し、卒業論文作成を行う。

10. 責任体制

本プログラムは、主として教育学部の日本語・日本文化教育学プログラムを担当するスタッフにより遂行される。遂行上の責任は、プログラム責任者(日本語・日本文化教育学プログラム主任)にある。計画・実施・評価・改善は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価・改善は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

日本語・日本文化教育プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけることができる。
	(2) 日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得ることができる。
	(3) 日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得ることができる。
	(4) 日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけることができる。
能力・技能	(1) 日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深める。	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深め、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深め、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深めることができる。
	(2) 日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究し、顕著な成果を得ることができる。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究し、成果を得ることができる。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究することができる。
	(3) 日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し、問題を明確化し、解決への新たな解決策を提示することができる。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し、複数の問題を明確化することができる。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化することができる。
	(4) 日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し、顕著な成果を得ることができる。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し、成果を得ることができる。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究することができる。
実践的な力	(1) 日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案する。	日本語教育の実践に向けて、その方法を具体的かつ適切に構想・立案することができる。	日本語教育の実践に向けて、その方法を具体的に構想・立案することができる。	日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案することができる。
	(2) 日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発する。	日本語教育の実践に向けて、その内容を批判的に分析し、より優れたものを開発することができる。	日本語教育の実践に向けて、その内容を総合的に分析・開発することができる。	日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発することができる。
	(3) 日本語教育の実践に向けて、指導案を構想する。	日本語教育の実践に向けて、効果的で実践可能な指導案を構想することができる。	日本語教育の実践に向けて、実践可能な指導案を構想することができる。	日本語教育の実践に向けて、指導案を構想することができる。
	(4) 日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進する。	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を具体的に計画し、効率的に推進することができる。	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を具体的に計画し、推進することができる。	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進することができる。
総合的な力	(1) 個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現する。	個人、あるいはグループで研究・活動を独創的に立案し、効果的に実現することができる。	個人、あるいはグループで研究・活動を適切に立案し、効果的に実現することができる。	個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現することができる。
	(2) 個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをする。	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる。	個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる。
	(3) コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をする。	コンピュータなどITを効果的に用いて、基礎的・応用的な情報処理や教材開発をすることができる。	コンピュータなどITを効果的に用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる。	コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる。
	(4) 日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造する。	日本語教育6領域の各領域を相互に有機的に関連づけ、体系的な視点から、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。	日本語教育6領域の各領域を相互に有機的に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。	日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤づくりを担い、教育学、言語学、文化学、心理学を含む人文科学・社会科学に関する基礎的な知識を修得します。加えて、外国語運用能力を向上させ、現代の国際社会や教育の要請に応える総合的な能力や資質を養います。

日本語・日本文化教育学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	(1)日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る。	外国語科目(◎◎)	外国語科目(◎◎) 言語学の理論と方法(◎)			言語心理学(○) Second and Foreign Language Teaching Method(△)			
	(2)日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る。	外国語科目(◎◎) 領域科目(○) 平和科目(○)	外国語科目(◎◎) 領域科目(○) 日本語の構造(△)	領域科目(○) 社会言語学(◎) 異文化接触と文化学習(◎) 現代文化論(◎) 日本語の語彙と意味(△) 日本文学と文化(△)	領域科目(○) 日本語文字・表記研究(◎)				
	(3)日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る。		日本語教育課程論(◎)	言語教育と社会(◎)	日本語教育と文法(△)		地域日本語教育(△)		
	(4)日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る。	領域科目(○) 日本語教育学基礎論(◎)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○) 言語教育と社会(◎)				
能力・技能	(1)日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深める。	教養ゼミ(◎)							
	(2)日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する。			日本語の表現と論理(△) 言語の比較と対照研究(△)		文化社会学(△)			
	(3)日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する。	教養ゼミ(◎)			年少者日本語教育(◎)				
	(4)日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する。	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○) 近代日本文学史(△)				

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実践的な力	(1)日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案する。	情報・データサイエンス科目(O)					日本語教育評価法演習(△)		
	(2)日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発する。				日本語の音声と発音(△)				
	(3)日本語教育の実践に向けて、指導案を構想する。				第二言語習得と指導(◎)				
	(4)日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進する。			日本語教授法研究(△)					
総合的な力	(1)個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現する。	教養ゼミ(◎) 大学教育入門(◎)				社会言語学演習(△) 発達学習援助演習(△) 言語人類学演習(△)		日本語教育学 特定研究Ⅰ(◎)	日本語教育学 特定研究Ⅱ(◎)
	(2)個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをする。	教養ゼミ(◎) 大学教育入門(◎)				文化社会学演習(△) 異文化間教育学演習(△)			日本語教育学 特定研究Ⅱ(◎)
	(3)コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をする。	情報・データサイエンス科目(O)					日本語教育 海外実習研究A(◎) 日本語教育 実習研究(◎)	日本語教育学 特定研究Ⅰ(◎) 日本語教育 海外実習研究B(◎)	卒業論文(◎)
	(4)日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造する。	教養ゼミ(◎) 大学教育入門(◎)					対照言語学演習(△) 表現法演習(△)	卒業論文(◎) 日本語教育 インターンシップ(△)	卒業論文(◎)

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業研究 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。

第1ターム:1T 第2ターム:2T 第3ターム:3T 第4ターム:4T

(例)第1ターム開講の科目 → (1T)コミュニケーション1

日本語・日本文化教育学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
永田 良太	教授	6866	教育学部棟 A107	ryota@
渡部 倫子	教授	6865	教育学部棟 A309	tomokow@
奥村 安寿子	准教授	6874	教育学部棟 A204	y-okumura@
中山 亜紀子	准教授	6878	教育学部棟 A110	anakayam@
西村 大志	准教授	6874	教育学部棟 A205	hnishi@
道法 愛	助教	6872	教育学部棟 A202	mdoho@
酒井 晴香	助教	6867	教育学部棟 A108	hasakai@

※E-mailアドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424- (内線番号4桁)」とすれば、直通電話となります。

(霞：082-257- (内線番号4桁))

(東千田：082-542- (内線番号4桁))